

実施日：6月15日（3校時）・6月18日（2校時）・9月18日～10月18日（全17時間）		
領域：教科（国語）		
取組名：豊かな言葉の使い手になろう		
対象：5・6年生児童・保護者		実施場所：教室・コンピューター室・体育館
ア ねらい 言葉の使い方や言葉から受ける感じなどに目を向け、相手の立場になって言葉を使うことができるようになる。		
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要		
月日	取組の概要	使用教材・資料
6月15日	土曜参観の3校時に体育館で、e-ネットキャラバンの講師の方に情報モラルについて講演をしてもらった。保護者参加数約70名であった。	「安心 インターネット ライフ☆ガイド」
6月18日	神戸中央少年サポートセンターの方に来てもらい、5・6年生の児童を対象に携帯電話の使い方についての学習を行った。	
9月18日 ～ 10月18日	国語科の単元「豊かな言葉の使い手になろう」（全14時間）の学習を開始した。相手の立場になって言葉を使うことの大切さを作文や討論会を通して学習した。	「5年国語教科書（光村図書）」
10月7日 ～ 10月11日	この週は、コンピューター室で情報モラルについての学習を行った（全3時）。	「安心 インターネット ライフ☆ガイド」 「ネット社会の歩き方」 <a href="http://www.cec.or.jp/network/">http://www.cec.or.jp/network/</a>
ウ 連携先：保護者・e-ネットキャラバン・神戸中央少年サポートセンター		
エ 連携にむけての取組 本校の児童間で携帯が原因のトラブルがあることや携帯依存になっている児童がいることなどから、e-ネットキャラバンの講師に、主に携帯やメールに関する講演をもらうよう依頼した。		
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 保護者向けの講演の中で配布されたパンフレットを5年生児童にも配布した。学習で使うだけではなく、家庭でも情報モラルについて話が進められるようにした。家庭でどのような話をしたか尋ねると共に、学級懇談会や個別懇談会で携帯やメールのトラブルがないか情報を集め、児童の情報モラルが変化したか確かめた。		
カ 評価の方法 5年生の情報モラル学習については、毎時間感想文を書いて評価を行った。[別紙①]		
キ 成果 e-ネットキャラバンや神戸中央少年サポートセンターの外部講師の方の協力を得たことで、繰り返し情報モラルの大切さを学ぶことができた。また、保護者と5年生児童が同じ資料をもつことで、家庭での話し合いが進められた。		
ク 課題 メールや書き込みについての理解は深まった。学んだことを実践するには、実際にメールで相手とやり取りをする学習が必要になるが、そこまでできなかった。		